会津学鳳

中高一貫教育検討委員会

第二次まとめ

平成１７年３月

会津学鳳中高一貫教育検討委員会

は　じ　め　に

福島県教育委員会は、「福島県学校教育審議会答申」（平成１３年１２月）及び「第５次福島県長期総合教育計画～新世紀ふくしまの学び・２０１０～」（平成１３年３月）に基づき、平成１５年３月、「中高一貫教育実施計画」を策定し、平成２２年度までの間に、併設型による中高一貫教育校を会津若松市に設置することとした。

本委員会は、これを受け、併設型による中高一貫教育を会津学鳳高校・県立中学校に導入するにあたり、近接する会津大学との緊密な連携、総合学科設置校であるという高校の特色を視野に入れ、その教育内容を他県に類を見ない特色あるものとするために、会津大学、会津若松市教育委員会、会津学鳳高校及び教育庁関係者を構成員として設置されたものである。

平成１５年度、本委員会では、分野別にそれぞれ関係する委員からなる５つの作業部会を編成し、相互に緊密な連携を図りつつ検討を進めるとともに、専門家の意見聴取、保護者、学校教育関係者等の意見聴取、文部科学省主催「北海道・東北地区中高一貫教育推進フォーラム」への参加、先行実施校の視察などを行い、情報収集に努め、平成１６年１月、「会津学鳳中高一貫教育検討委員会まとめ」（以下「まとめ」と記述）として、会津学鳳中高一貫教育校の概要について取りまとめた。

平成１６年度は、「平成１６年３月３１日文部科学省告示第６０号」により併設型中学校及び併設型高等学校の教育課程の基準の特例が拡充され、併設型高等学校における指導内容の一部を併設型中学校における指導の内容に移行させて指導することが可能となったことを受けて、本検討委員会においても、教育目標に沿った特色ある教育活動をより一層効果的に行うため、この特例の活用の可能性を検討するとともに、総合的な学習の時間等の教育課程の具体的な内容や入学者選抜の在り方について、「まとめ」の内容を基に更に具体的に検討を進めた。本「第二次まとめ」は、その内容を取りまとめたものである。

※　「第二次まとめ」では、「まとめ」に具体的内容を加えるとともに、構成を一部変更した。追加や変更がなかった箇所は、説明を省略して概要のみを再掲するとともに、追加や変更があった箇所は該当箇所をゴシック体で記述した。

1　設置年度等

(1)　設置年度　平成１９年度（中学１年生の受け入れ開始）

(2)　学校名　　福島県立会津学鳳中学校（仮称）
　　福島県立会津学鳳高等学校

(3)　設置形態
　　福島県立会津学鳳高等学校に県立中学校を併設し、併設型による中高一貫教育を実施する。

(4)　学校規模　中学校　　１学年３学級（　９０名）
　　高等学校（総合学科）　１学年６学級（２４０名）

2　教育コンセプト

(1)　教育目標　　「国際化、情報化社会に夢拓（ゆめひら）く力の育成」

(2)　育てる力

①　基礎・基本をもとに自ら学び考える力

②　高いレベルの目標を設定し主体的に学ぶ力

③　情報活用能力､外国語によるコミュニケーション能力及び国際感覚を兼ね備え、地球的規模で考え行動する力

(3)　目指す生徒像　「夢の実現に向けて主体的に学ぶ生徒」

3　教育内容

(1)　教育課程編成の基本的な考え方

上記の教育目標の実現を図るため、「情報教育」「語学教育」「多文化理解教育」を中高を貫く教育の柱とし、併設型による中高一貫教育校の特長や総合学科の特色を踏まえるとともに、会津大学等との連携を緊密にし、教育課程を編成する。

(2)　教育課程等

①　中高６年間の再構成

中学校及び高等学校の６年間を、「自己理解」、「個性探求」、「視野拡大」、「個性伸長」の４つのステージに再構成する。

	学年・年次	ステージ	内　　容
中学校	１年	自己理解	各教科の基礎・基本を確実に身に付け、自己の興味・関心、能力・適性を探る。
	２年 ３年	個性探求	自己の興味・関心、能力・適性に応じて教科を選択し、主体的に学ぶ。
高等学校	１年次	視野拡大	自己を啓発するとともに、職業や自己の進路などに関する視野を拡大する。
	２年次 ３年次	個性伸長	総合学科の特色を生かし,自己実現に向けて焦点化した学習に主体的に取り組む。

② ６年間一貫した教育課程等**（別紙１）**

ア 学力を高め、夢を実現する教育課程

(ｱ) 中学校の教育課程（別紙２）

年間総授業時数を標準より多く設定し、必修教科及び選択教科の授業時数を十分に確保し、基礎・基本の徹底を図る。

また、中高６年間を見通した系統的な指導法を研究し、平成１６年４月に施行された教育課程の基準の特例（資料１：１の三のハ）を活用して、高等学校で指導する内容の一部を移行して中学校で指導することにより、能力を最大限に伸ばす指導を早期から徹底する。

○ 必修の各教科に充てる時数は十分に確保し、各教科の指導内容の徹底という視点から「選択教科による必修教科の代替」の特例**（資料１：１の一のロ）**は適用しない。

○ 上記を踏まえ、年間総授業時数を１，０５０単位時間（１単位時間５０分換算）として、必修教科や選択教科の充実を図ることとした。

○ 各教科ごとに中高の一貫性に配慮したシラバスの作成や教材の開発等を行い、指導内容の重複を避け、中高のギャップをなくし、６年間を見通した系統的な指導法を研究する。

○ 上記の視点から、併設型中学校と併設型高等学校の「指導内容の一部の移行」の特例（資料１：１の三のハ）を活用する。

○ 具体的には、次のような教育課程が考えられる。

(1) 必修教科

- **１年次：数・英の授業時数増（105h→140h）**
  ２年次：国・数・英の授業時数増（105h→120h）
  ３年次：国・数・英の授業時数増（105h→140h）
  中学校３年間では、国語が５０単位時間、数学、英語が８５単位時間の増加になる。
- **主に３年次の必修教科において、高等学校で指導する内容の一部を移行して指導する。**

例） 「国語総合」の古典
⇒ 標準４単位中１単位分指導する。
「数学Ⅰ」の「方程式と不等式」「二次関数」
⇒ 選択教科と合わせ、標準３単位中２単位分指導する。
「数学Ａ」の「集合と論理」
⇒ 標準２単位中１単位分指導する。
「英語Ⅰ」の前半
⇒ 標準３単位中２単位分指導する。

(2)　選択教科

- **国数英社理音美保技**

  １年次：国数英から１教科(30h)

  ２年次：国数英から２教科(25h×2)

  ３年次：国数英社理音美体技家から２教科(30h×2)

- **「その他必要な教科」**

  ２年次：「情報基礎」(30h)

  「コミュニケーション基礎」(30h)

  いずれも、学校設定教科で、教科名は仮称。

  ３年次：「オーラルコミュニケーションⅠ」(35h)

  「情報Ａ」(35h)

  いずれも、高校の必履修科目の内容の一部を先取り履修する。

○　以下の諸教育活動において高校との連携を強化し、６年間を通した指導の効果を高める。

(1)　指導体制・指導方法等（中高教員の相互乗り入れ授業、Ｔ・Ｔ、授業研究　等）

(2)　特別活動・「総合的な学習の時間」等

(3)　進路指導・生活指導

(4)　教育課程外の諸活動

(ｲ)　高等学校の教育課程**（別紙３）** 充実したキャリア教育や、自らの興味・関心、能力・適性、進路目標等に応じて焦点化した学習を可能とする総合学科の特色を十分に生かし、進路実現に必要な学力を身に付けさせるとともに、生徒一人一人に学ぶことの楽しさや成就感を体験させ、生涯にわたって自ら学ぶ意欲、態度を育成する。

○　「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」等を活用して、将来の職業に必要な資格や学歴を視野に入れた主体的な科目選択が、余裕を持って可能になるよう配慮する。

○　生徒一人一人が、自己の興味・関心、能力・適性、進路希望等に応じて主体的に教科・科目を選択できるよう、以下の８系列にわたる幅広い科目開設を行うこととする。

「人文社会系列」

地域社会が育んだ文化を基盤として、広い視野で人間・社会・文化について学習する。文科系の上級学校への進学を視野に入れる。

「国際理解系列」

国際感覚を身に付け、国際化に対応できる素養を身に付ける。文科系の上級学校

への進学を視野に入れる。

「自然科学系列」

自然の探求と自然科学の系統的な理解を目指す。理科系の上級学校への進学を視野に入れる。

「コンピュータ科学系列」

情報とコンピュータの基礎知識を学び、コンピュータの活用技術と情報処理の能力を養う。理科系、コンピュータ科学系の上級学校への進学を視野に入れる。

「生活科学系列」

生活（衣・食・住）に関連する分野を科学的に学習する。家政系の上級学校への進学を視野に入れる。

「環境福祉系列」

環境に関する学習及び福祉に関する基礎知識や技術の習得を通して、共生社会についての幅広い理解を目指す。福祉系・医療系の上級学校への進学を視野に入れる。

「スポーツ健康系列」

健康・体力づくりの実践とスポーツ活動を通して地域社会へ積極的に参加し、健康な生活を実現できる能力を養う。体育系の上級学校への進学を視野に入れる。

「芸術文化系列」

芸術の深化と地域の伝統文化を学習する。芸術系の上級学校への進学を視野に入れる。

○　**併設型中学校からの入学生（内進生）については、中学校において既習の内容は再度履修せず、次の段階の学習に進んだり、自らの興味・関心、能力・適性、進路目標等に応じて科目を選択することによって、入学時から焦点化した学習を進める。**

○　併設型中学校からの入学生（内進生）と併設型中学校以外からの入学生（外進生）の学力や人間関係の融合のため、特別活動や「総合的な学習の時間」等での共同活動や交流の機会を数多く設定するとともに、学級編成や授業の形態等について工夫する。

○　**数・英については、習熟度別の指導により、個々の能力・適性に応じたより質の高い学習を進める。**

イ　情報活用能力の育成

中学校において、本校独自の学校設定教科**「情報基礎」（仮称）を２学年で開設するとともに、高等学校の情報に関する科目を３学年で開設する。**

さらに、高等学校において、「情報教育」に関する選択科目を開設し、会津大学との緊密な連携によって、中学校から継続的、発展的に、情報活用能力の育成を図る。

○　具体的には、次のような教育内容が考えられる。

(1)　中学校における「その他必要な教科」

２年次：「情報基礎」（仮称）（30h）

中学校必修教科の技術・家庭における「情報とコンピュータ」の学習内容を基盤として、アプリケーションソフト（ワープロ、表計算など）や情報通信ネットワーク、マルチメディアの活用の仕方に習熟させ、積極的に活用しようとする態度を養う。

３年次：「情報Ａ」(35h)

高校の必履修科目の内容の一部を先取り履修する。

コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技術を習得させるとともに、情報を主体的に活用しようとする態度を育てる。

(2)　高等学校における必履修科目

１年次：「情報Ａ」

⇒　内進生は、前期に２単位中残り１単位分履修し、後期からは、進路目標や興味･関心に応じて自由に科目選択する。

⇒　外進生は２単位分履修する。

(3)　高等学校における選択科目

「情報実習」（高２）

情報システムの設計・管理及びマルチメディアに関する各専門分野の基礎を、実際の操作を通して習得させることにより、情報技術の高度な活用と発展的な応用ができる能力と態度を育てる。

「情報と表現」（高２）

情報と表現に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、情報機器を使った表現力とコミュニケーション能力を伸ばすとともに、情報を適切に表現する能力を育てる。

「アルゴリズム」（高３）

代表的なアルゴリズムとデータ構造に関する知識と技術を習得させ、プログラミング言語やデータベースマネージメントシステム等を利用し、実際に活用できる能力を育てる。

「ネットワークシステム」（高３）

情報通信ネットワークシステムに関する知識と技術を習得させ、情報通信社会に主体的に対応できる能力と態度を養う。

「コンピュータデザイン」（高３）

デザインに関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に創造し、応用する態度を養う。

「マルチメディア表現」（高３）

マルチメディアによる表現活動を通して、マルチメディアによる伝達効果とその特性について理解させ、作品を構成し企画する実践的な能力と態度を育てる。

○　会津大学の高度な情報資源の活用を図るため、ネットワークへの接続等、情報環境を整備する。更に会津大学の教員・学生の協力を得て、情報に関する高度な専門知識の自主的な学習を可能とする。

ウ　英語が使える国際人の育成

中学校において、本校独自の学校設定教科**「コミュニケーション基礎」（仮称）を２学年で開設するとともに、高等学校の英語に関する科目を３学年で開設する。**

さらに、高等学校において、「語学教育」「多文化理解教育」に関する選択科目を開設し、会津大学との緊密な連携によって、中学校から継続的、発展的に、外国語によるコミュニケーション能力等の育成を図る。

○　具体的には、次のような教育内容が考えられる。

(1)　中学校における「その他必要な教科」

２年次：「コミュニケーション基礎」（仮称）（30h）

身近な日常生活の場面で、相手の意向などを聞き取り、自分の考えなどを正しい日本語や英語で表現する能力を養い、国際社会において豊かにコミュニケーションを図ることができる能力の基礎を培う。

３年次：「オーラルコミュニケーションⅠ」（35h）

高校の必履修科目の内容の一部を先取り履修する。

日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを理解し、伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

(2)　高等学校における必履修科目

１年次：「オーラルコミュニケーションⅠ」

⇒　内進生は、前期に２単位中残り１単位分を履修し、後期からは、「オーラルコミュニケーションⅡ」に進み、英語で討論する力などを身に付ける。

⇒　外進生は２単位分履修する。

(3)　高等学校における選択科目

①　「語学教育」に関する科目

「時事英語」（高３）

新聞・雑誌・テレビ・ラジオ等、マスメディアで使用される英語を理解し、高度な英語運用能力を育成する。

「コンピュータ・ＬＬ演習」（高２～３）

ＬＬ教室にて、コンピュータソフト、ＣＤ－ＲＯＭ教材を利用して英語を聞き取ったり、電子メールで自分の考えを表現する力を養成する。

また、英検、ＴＯＥＦＬ、ＴＯＥＩＣ対策ソフトを利用して各自の目標に沿って学習を行う。

（注）英検 …（財）日本英語検定協会が実施する「実用英語技能検定試験」

ＴＯＥＦＬ(Test of English as a Foreign Language)

… 米国非営利教育団体Educational Testing Services(ETS)が開発した米国留学のための英語学力検定テスト

ＴＯＥＩＣ(Test of English for International Communication)

… 米国非営利教育団体Educational Testing Services(ETS)が開発した国際コミュニケーション英語能力テスト

「インター英語」（学校設定科目、仮称）（高３）

インターネットの活用方法を学ぶ。インターネットの海外の商業英語の理解、インターネット上の外国紙の読解、海外ホームページのアクセスと電子メールを通じた意見交換などを行う。

「国際交流」（学校設定科目、仮称）（高２～３）

書簡や人的交流を通して、異文化や外国事情の理解を深めるとともに、自らの拠って立つ地域を見直し、相互の立場を理解・尊重する態度と意欲を養う。

その他、英語表現やプレゼンテーションに関する科目の開設も考えられる。

② 「多文化理解教育」に関する科目

自他の文化の理解の上に、外国の人に日本の伝統文化や会津地方の文化などを紹介したり、自分の考えを整理して発表したり、話し合うという実践的コミュニケーション能力を育成するために、以下のような学校設定科目の開設が考えられる。

また、多文化理解教育の実施に当たっては、例示した学校設定科目の中で行うことの他に、国語・英語・地理歴史などの必履修教科や「総合的な学習の時間」等における学習、外国の中学生、高校生との人的交流も視野に入れる。

（学校設定科目の例）

「日本文化理解Ⅰ」（仮称）

日本の伝統文化全体を学び、海外の人にこれらのことを伝えることができるようにする。

「日本文化理解Ⅱ」（仮称）

日本人の習慣やものの考え方を学び、何故自分がこのようなものの考え方をするのかを知る。

「会津地方文化理解」（仮称）

会津地域の文化を学び、会津を海外の人に紹介できるようにする。

「日米比較文化Ⅰ」（仮称）

日本と米国のものの考え方、習慣、その他の相違を学問的に理解する。

「日米比較文化Ⅱ」（仮称）

コミュニケーションを円滑にするために、日本と米国のコミュニケーション方法の相違に焦点を当てて、両国の文化を学ぶ。

「日本・アジア比較文化」（仮称）

コミュニケーションを円滑にするために、日本とアジアのものの考え方、習慣等の類似性と相違性を学問的に理解する。

○　会津大学の語学教育システム（ＬＭＬ等）の活用や、会津大学の教員の定期的な訪問による直接指導のほか、中高６年間を見通した教材を使用し、英語の運用能力を高める。

（注）ＬＭＬ…Language Media Laboratoryの略。コンピュータを使用して音声帯域を視覚的にとらえることにより、発音をよりネイティブに近づけることができる。

○　外国語によるコミュニケーション能力を高め、海外の中学校、高校との情報機器を活用したコミュニケーションや相互訪問等により、生徒間、教員間の国際交流を進める。

○　郷土や日本の伝統、文化に対する理解を深め、それを教養の基盤として、他国の伝統や文化を尊重する態度を養い、国際社会の一員としての広い視野を持つ「地球市民」としての考え方や態度の育成を目指す。

エ　**「学鳳レインボープロジェクト」（仮称）（別紙４）**

６年間を通した自己探求活動の基盤となる学習活動と位置づけ、各ステージの段階に応じてキャリア教育の充実を図り、自ら学び考える力、主体的に学ぶ力を育成する。

○　**中高の総合的な学習の時間と総合学科の原則履修科目「産業社会と人間」を連携させた「学鳳レインボープロジェクト」（仮称）**を、自己理解（中１）→個性探求（中２・中３）→視野拡大（高１）→個性伸長（高２・高３）という自己探求活動の基盤を形成する学習活動と位置づけ、「自ら学び考える力」「主体的に学ぶ力」の育成を図る。

○　なお、実施にあたっては以下の点に配慮する。

(1)　身近な社会事象や自然環境に関することがらの中から課題を見いだし、主体的に課題を解決する学習活動を通して、学び方やものの考え方が身に付くようにする。

(2)　各教科・科目等で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、深め、それらを総合

的に活用できるようにする。

(3)　様々な体験的活動を通して、自己の在り方生き方や進路を考えることができるようにする。

○　**具体的には、次のような教育内容が考えられる。**

(1)　中学校では、「ふくしま学」（仮称）を設定し、身近な地域を主なフィールドとして、調査・討論・発表等の体験活動を行い、その活動を通して学び方やものの考え方の基礎を身に付けるとともに、地域社会と自分との関わりを通して自分自身を見つめ、肯定的自己理解と自らの興味・関心に基づく勤労観・職業観の育成を図る。

(2)　高等学校では、「レインボーゼミ」（仮称）を設定し、対象を地域から２１世紀の地球的課題に拡げ、クラスを越えたゼミにおける探究型学習を通して、身に付けた知識や技能の深化・総合化を図るとともに、自己の在り方生き方や進路についての考えを深め、勤労観・職業観の確立を図る。

(3)　さらに、「ふくしま学」（地域）と「レインボーゼミ」（世界・２１世紀）をつなぐ学習、内進生と外進生の融合を図る学習として、「産業社会と人間」を位置づけ、「夢の架け橋プログラム」（仮称）として、２１世紀の地球的課題に最前線で取り組む方々の講演やライフプランの作成や発表などを通して、自己理解の深化と視野の拡大を図る。

オ　特別活動

学校行事や生徒会活動等の特別活動を中高合同で実施し、異年齢集団による活動を通して、社会性や豊かな人間性を育成する。

○　併設型中高一貫教育校の特長を生かして、学校行事や生徒会活動等を中高合同で実施するなど、異年齢集団との交流の機会を増やし、社会性や豊かな人間性を育成することを目指す。

○　**具体的には、次のような教育内容が考えられる。**

(1)　学級活動（高校ではホームルーム活動）

- **話し合い活動、班活動、係活動、就業体験、進路学習等**

(2)　生徒会活動

- **執行部の交流会、生徒会総会、ボランティア活動等**

(3)　学校行事

- **文化祭、芸術鑑賞等(学芸的行事)**
- **体育祭、球技大会等（健康安全・体育的行事）**
- **福祉・ボランティア活動等（勤労生産・奉仕的行事）等**

③　指導方法、指導体制等

ア　中学・高校ともに２学期制（前期・後期）を採用する。 また、高校では単位制を採用し、学期ごとの単位認定を行う。

イ　英語と数学について、６年間を通して少人数による習熟度別指導を実施し、基礎・基本の徹底と個に応じた指導を行う。

ウ　中高の教員によるティーム・ティーチングを実施する等、中高の教員が連携した指導を行う。

エ　各教科における系統的な指導計画の作成等、６年間の見通しを持った指導体制、指導方法を研究する。

オ　生活時間については、１単位時間及び昼食時間について、必要な調整を図ることにより、中高の授業の開始、終了時間をそろえる。

○　中学校及び高校の教育活動の緊密な連携を図るために、中高ともに２学期制を採用する。

○　基礎・基本の徹底と個に応じた指導を充実させる観点から、少人数による習熟度別指導、中高の教員が連携したティーム・ティーチングや相互乗り入れ授業等を実施する。

○　中高一貫教育校の特長を生かし、中高の教員が連携して継続的な生徒理解に努め、生徒の個性に応じたきめ細かな教科指導、進路指導、生活指導を行う。

○　**以下に日課表の例を示す。**

(日課表例)

中　学　校		高等学校	
朝の会	８：１５～　８：２５	ＳＨＲ	８：１５～　８：２５
１校時	８：３０～　９：２０	１校時	８：３０～　９：２０
２校時	９：３０～１０：２０	２校時	９：３０～１０：２０
３校時	１０：３０～１１：２０	３校時	１０：３０～１１：２０
４校時	１１：３０～１２：２０	４校時	１１：３０～１２：２０
昼食･休憩	１２：２０～１３：１５	昼食･休憩	１２：２０～１３：１５
清　掃	１３：１５～１３：３０	清　掃	１３：１５～１３：３０
５校時	１３：３０～１４：２０	５校時	１３：３０～１４：２０
６校時	１４：３０～１５：２０	６校時	１４：３０～１５：２０
帰りの会	１５：２０～１５：３０	７校時	１５：３０～１６：２０

4　入学者選抜方法に関する考え方について

(1)　福島県立会津学鳳中学校（仮称）への入学

①　出願資格

次の各号のいずれかに該当する者とする。

(ｱ)　福島県内の小学校又はこれに準ずる学校(以下「小学校」という。)を卒業する見込みの者で保護者の現住所が福島県内にある者

(ｲ)　特別な事情があり、福島県教育委員会が出願を許可した者

②　募集定員

90名（予定）

③　選抜の資料

(ｱ)　適性検査

問題発見･解決能力、思考力、判断力、表現力等、小学校教育において身に付けた総合的な力をみる。

(ｲ)　作文

与えられた課題について、考えたことや感じたことなどをまとめ、文章で表現する力をみる。

(ｳ)　面接

学習や諸活動への関心・意欲・態度をみる。

(ｴ)　調査書

小学校での学習や生活の状況をみるために、各教科の学習、特別活動、総合的な学習の時間、行動の記録などが記載された調査書を用いる。

④　選抜の方法

県立中学校長は、適性検査、作文及び面接の結果、並びに小学校長から提出される調査書を資料として、志願者の意欲･能力･適性等を総合的に判定し、入学予定者を決定する。

(2)　福島県立会津学鳳高等学校への入学

①　併設中学校からの入学

入学者選抜は行わず、入学の意思確認を経て、進学できる。

②　併設中学校以外からの入学

選抜日程も含めて、他の県立高等学校の入学者選抜に準ずる。

○　併設中学校の入学者選抜に当たっては、学力検査を行わないこととし、小学校で学習した成果や身に付いている力を可能な限り客観的に測定するとともに、６年間継続して学ぶ意欲や適性を判定することに配慮した。

○　当分の間、県内で唯一の併設型中高一貫教育校であること、高校の設置学科の学区が

県下一円であることから、併設中学校の学区は県下一円とすることが適当であると考える。

○　なお、入学者選抜については、本委員会の所掌ではないが、中高一貫教育の趣旨を踏まえ、**他県の先行事例等を参考に**検討したものであ**り、後日、福島県教育委員会で正式に決定されるべきものである。**

5　その他

(1)　止宿先の斡旋等を検討する。

(2)　給食については、「完全給食」の実施を検討する。

（別紙１）

別ファイル参照

会津学鳳中学校（仮称）教育課程［時数配当表］（案）

学年		第１学年 年間授業時数 （１単位時間５０分）		第２学年 年間授業時数 （１単位時間５０分）		第３学年 年間授業時数 （１単位時間５０分）	
教科等		案	標準	案	標準	案	標準
必修教科	国語	１４０	１４０	１２０	１０５	１４０	１０５
	社会	１０５	１０５	１０５	１０５	８５	８５
	数学	１４０	１０５	１２０	１０５	１４０	１０５
	理科	１０５	１０５	１０５	１０５	８０	８０
	音楽	４５	４５	３５	３５	３５	３５
	美術	４５	４５	３５	３５	３５	３５
	保健体育	９０	９０	９０	９０	９０	９０
	技術・家庭	７０	７０	７０	７０	３５	３５
	外国語	１４０	１０５	１２０	１０５	１４０	１０５
選択教科	国語	←	０～３０	← A・B【3教科から2教科選択】(25×2)	５０～８５（１教科以上、70時間以下／教科）	← A・B【9教科から2教科選択】(30×2)	１０５～１６５（２教科以上、70時間以下／教科）
	社会					←	
	数学	←		←		←	
	理科					←	
	音楽	A(30)				←	
	美術					←	
	保健体育					←	
	技術・家庭					←	
	外国語	←		←		←	
	その他必要な教科			**○「情報基礎」（３０）** **○「コミュニケーション基礎」（３０）**		**○「情報A」（３５）**（高校の科目） **○「オーラルコミュニケーションⅠ」（３５）**（高校の科目）	
	総履修数	**1教科**	(0～1教科)	**4教科**	（1教科以上）	**4教科**	（2教科以上）
道徳		３５	３５	３５	３５	３５	３５
特別活動		３５	３５	３５	３５	３５	３５
総合的な学習の時間		７０	７０～１００	７０	７０～１０５	７０	７０～１３０
総授業時数		**1，050**	９８０	**1，050**	９８０	**1，050**	９８０

（別紙３）

会津学鳳高等学校教育課程［単位計画表］（案）

教科	科目	標準単位数	中3	１年次	２～３年次
国語 (6)	現代国語Ⅰ	2			2
	表現Ⅱ	2			2
	総合国語	4	①	内④ 外⑤	
	現代文Ⅰ	4			4・5
	古典Ⅰ	4			4・5
	古典講読	2			2
地理歴史 (6)	世界史A	2			2 ●
	世界史B	4			3・4
	日本史A	2			2 ●
	日本史B	4			4
	地理A	2			2 ●
	地理B	4			4
公民 (3)	現代社会	2		②	2
	倫理	2			2
	政治・経済	2			2
数学 (6)	数学Ⅰ	3	後②	内前② 外④	
	数学Ⅱ	4		内後②	内前② 外4
	数学Ⅲ	3			4
	数学A	2	後①	内前① 外②	
	数学B	2		内後①	内前① 外2
	数学C	2			2
理科 (9)	理科基礎	2			②
	物理Ⅰ	3			3
	物理Ⅱ	3		③	
	化学Ⅰ	3			3
	化学Ⅱ	3			3
	生物Ⅰ	3			3
	生物Ⅱ	3			3
	地学Ⅰ	3			3
	地学Ⅱ	3			3
保健体育 (2)	体育	7～8		②	③ ②
	保健	2		①	①
芸術 (12)	音楽Ⅰ	2		②▲	
	音楽Ⅱ	2			2
	音楽Ⅲ	2		②▲	
	美術Ⅰ	2			2
	美術Ⅱ	2		②▲	
	美術Ⅲ	2			2
	工芸Ⅰ	2		②▲	
	工芸Ⅱ	2			2
	工芸Ⅲ	2		②▲	
	書道Ⅰ	2			2
	書道Ⅱ	2			2
	書道Ⅲ	2			2
外国語 (6)	オーラル・コミュニケーションⅠ	2	①	内前① 外②	
	オーラル・コミュニケーションⅡ	4		内後①	内② 外3・4
	英語Ⅰ	3	後②	内前② 外④	
	英語Ⅱ	4		内後②	内前② 外4
	リーディング	4			3・4
	ライティング	4			3・4
家庭 (10)	家庭基礎	2			②
	発達と保育	2～6			2
	児童文化	2～4			2
	リビングデザイン	2～4			2
	被服製作	2～8			2・2
	ファッションデザイン	2～8			2
	服飾手芸	2～4			2
	ファッションデザイン	2～8			2・2
	食文化	2～4			2
	栄養	2～6			2
情報 (9)	情報A	2	①	内① 外②	
	情報B	2			2
	情報C	2			2
	情報実習	4～8			4
	情報と表現	2～4			2
	アルゴリズム	2～4			2
	ネットワークシステム	2～4			2
	コンピュータデザイン	2～4			2
	マルチメディア表現	2～6			2
農業	環境科学基礎	3～6			2
商業	文書デザイン	2～4			2
福祉 (4)	社会福祉基礎	2～6			2
	社会福祉制度	2～4			2
	基礎介護	2～6			2
	社会福祉演習	2～6			2・2

教科	科目	標準単位数	１年次	２～３年次
体育 (6)	体育理論	3～6		3
	体育Ⅰ	2～6		2
	ポピュラースポーツⅠ	2～12		2
	ポピュラースポーツⅢ	2～6		2
	ニュースポーツ	2～3		2
	野外活動	2～4		2
音楽 (6)	音楽理論	2～6		2
	音楽史	2～6		2
	音楽演奏法	2～6		2
	ソルフェージュ	2～6		2
	声楽	2～12		2
	器楽	2～12		2
美術 (6)	美術概論	2～4		2
	素描	2～6		2
	絵画	2～10		2
	版画	2～6		2
	彫刻	2～10		2
	映像メディア表現	2～6		2
英語 (2)	時事英語	2～4		2
	コンピュータ・LL演習	2～4		2・4
総合 (1)	産業社会と人間	2～4	②	
学校設定科目 (64)	現代文研究			2
	古典研究			2
	国語演習			2・4
	世界史研究			2
	日本史演習			2
	地理研究			2
	世界展望			2
	日本展望			2
	地理演習			2
	現代社会研究			2
	倫理・政治・経済演習			2
	数学Ⅰ研究			2
	数学Ⅱ研究			2・4
	数学Ⅲ研究			2・4
	数学A演習			2
	数学B演習			2
	数学C演習			2
	物理展望			2
	化学展望			2
	生物展望			2
	地学展望			2
	英語展望			2・4
	英語リーディング展望			2・4
	英語ライティング展望			2
	英語・点字タイプ			2
	手話			2
	楽曲作編曲法Ⅰ			2
	楽曲作編曲法Ⅱ			2
	楽曲作編曲法Ⅲ			2
	美術Ⅰ			2
	美術Ⅱ			2
	美術Ⅲ			2
	書道Ⅰ			2
	書道Ⅱ			2
	書道Ⅲ			2
	日本文化学			2
	日本文化入門			2
	中国語Ⅰ			2
	中国語Ⅱ			2
	ロシア語Ⅰ			2
	ロシア語Ⅱ			2
	国際交流			2
	会津学			2
	会津の郷土料理			2
	会津の道			2
	会津の茶道			2
	会津の華道			2
	会津の伝統芸能			2
	会津の伝統工芸			2
	会津の伝統キャラクター			2
	会津ガイダンス			2
	会津ボランティア			2
	会津ボランティア概論			2
	会津ボランティア常識			2
	会津ボランティアⅠ		5	
	日本語Ⅰ			2
	日本語Ⅱ			2
	日本語Ⅲ			2
	日本文化Ⅰ		2	
	日本文化Ⅱ			2
	日本文化Ⅲ			2

○：必履修科目　▲：１科目選択必履修　●：選択必履修　前：前期　後:後期　内:内進生　外:外進生

高校1年次：２～３年次の選択科目の中から２単位選択（内進生のみ）

小　計	１６０科目
ホームルーム活動	1
総合的な学習の時間	1
合　計	１６２科目

（別紙４）

会津学鳳中学校（仮称）・高等学校における総合的な学習の時間の全体構想（案）

教育目標～国際化、情報化社会に夢拓（ゆめひら）く力の育成

教育の普遍的な使命と新しい時代の大きな変化の潮流を踏まえ、中高一貫教育の中で「生きる力」を身に付けて、将来、社会の様々な分野で人々の信頼を得て、リーダーとして活躍できる人材の育成を目指す。

育む力	①　基礎・基本をもとに自ら学び考える力 ②　高いレベルの目標を設定し主体的に学ぶ力 ③　情報活用能力、外国語によるコミュニケーション能力及び国際感覚を兼ね備え、地球的規模で考え行動する力

「学鳳レインボープロジェクト」

「レインボー」：会津の地から２１世紀の世界へ、そして中学校から高校へとかかる七色（多様な進路･専門分野･興味･関心）に輝く虹をイメージ

目　標

- ○　夢と学ぶ意欲を育み、学び方を身に付けさせる
- ○　問題解決能力を育成する
- ○　地球的規模で考え行動する力を育成する

高３・高２　個性伸長

「レインボーゼミ」　（総合的な学習の時間）

- ○　クラスを超えた「ゼミ」における探究型学習
- ○　一人一人の興味・関心、進路に応じ、将来の夢実現に向けた問題解決的な学習
- ○　２１世紀の地球的課題への、異なる専門分野からの横断的･総合的アプローチ
- ○　大学や企業の研究室、ＮＰＯ、官庁（国、県等）等との共同（連携）研究
- ○　卒業論文の作成と、地域の人たちや高校１年生、中学生への発表

（ゼミ例）　「ユニバーサルデザイン」

生活科学　環境福祉　人文社会　自然科学　芸術文化　スポーツ　国際理解　コンピュータ科学

（８つの系列、異なる専門分野からの横断的･総合的アプローチ）

⇒ **キャリア発達の流れ**

- ○進路の現実吟味と試行的参加
- ○勤労観・職業観の確立
- ○生き方の考察

高１　視野拡大

「夢の架け橋プログラム」　（産業社会と人間）

- ○　２１世紀の地球的課題に最前線で取り組む大学、企業、ＮＰＯ等の講師の講話
- ○　人間としての生き方、在り方を学ぶための地域における様々な体験学習
- ○　自己と他者を知り他者と協調して社会の中で生きていくためのスキル学習
- ○　ライフプランの作成と、地域の人たちや中学生への発表
- ○　「ふくしま学」（地域）と「レインボーゼミ」（世界･21世紀）をつなぐ学習

⇒

- ○自己理解の深化と自己受容
- ○将来設計の立案と社会的移行の準備

中３・中２　個性探求

「ふくしま学」　（総合的な学習の時間）

（２、３年）

- ○　ふくしま、会津の産業、地域で生きる人々等に関する調査・討論・発表活動
- ○　職場体験等、働く人々との出会いの中で進める地域学習、個性探求
- ○　情報、国際コミュニケーションに関する教科等で身に付けるＩＴ活用能力、語学力などを実際の場面で生かす学習活動

中１　自己理解

（１年）

- ○　ふくしま、会津の自然、歴史、文化についてのフィールドワーク等の調査活動
- ○　人、地域、自然との出会いの中で進める地域理解、自己理解
- ○　調べ方やまとめ方など、学び方の学習

⇒

- ○興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成
- ○生き方や進路に関する現実的探索
- ○肯定的自己理解と自己有用感の獲得

（資料１）

中等教育学校並びに併設型中学校及び併設型高等学校の教育課程の基準の特例を定める件

（平成１０年１１月１７日文部省告示第１５４号・平成１１年3月２９日文部省告示第５９号一部改正・平成１６年3月３１日文部科学省告示第６０号一部改正）

１　中等教育学校並びに併設型中学校及び併設型高等学校における中高一貫教育（中学校における教育及び高等学校における教育を一貫して施す教育をいう。以下同じ。）において特色ある教育課程を編成することができるよう次のように教育課程の基準の特例を定める。

一　中等教育学校の前期課程又は併設型中学校の選択教科については、次のように取り扱うものとすること。

イ　各選択教科の授業時数は、第１学年については年間３０単位時間の範囲内、第２学年及び第３学年については年間７０単位時間の範囲内で当該選択教科の目的を達成するために必要な時数を各学校において定めること。ただし、特に必要がある場合には、これらを超えて必要な時数を各学校において定めることができること。

ロ　学校教育法施行規則別表第３の２備考第５号の規定により必修教科の授業時数を減ずる場合は、その減ずる時数を当該必修教科の内容を代替することのできる内容の選択教科の授業時数に充てること。

二　中等教育学校の後期課程又は併設型高等学校の普通科においては、生徒が高等学校学習指導要領（平成１１年文部省告示第５８号）第１章第２款の４及び５に規定する学校設定科目及び学校設定教科に関する科目について修得した単位数を、合わせて３０単位を超えない範囲で中等教育学校又は併設型高等学校が定めた全課程の修了を認めるに必要な単位数のうちに加えることができること。

三　中等教育学校並びに併設型中学校及び併設型高等学校における指導については、次のように取り扱うものとすること。

イ　中等教育学校の前期課程及び併設型中学校と中等教育学校の後期課程及び併設型高等学校における指導の内容については、各教科や各教科に属する科目の内容のうち相互に関連するものの一部を入れ替えて指導することができること。

ロ　中等教育学校の前期課程及び併設型中学校における指導の内容の一部については、中等教育学校の後期課程及び併設型高等学校における指導の内容に移行して指導することができること。

ハ　中等教育学校の後期課程及び併設型高等学校における指導内容の一部については、中等教育学校の前期課程及び併設型中学校における指導の内容に移行して指導することができること。この場合においては、中等教育学校の後期課程及び併設型高等学校において当該移行した指導の内容について再度指導しないことができること。

２　中等教育学校並びに併設型中学校及び併設型高等学校における中高一貫教育においては、６年間の計画的かつ継続的な教育を施し、生徒の個性の伸長、体験学習の充実等を図るための特色ある教育課程を編成するよう配慮するものとする。

附　則

この告示は、平成１６年４月１日から施行する。

（資料２）

平成１６年度会津学鳳中高一貫教育検討委員会の検討経過

１　第１回会議　　５／２６（水）　１３：３０～１５：００　自治会館３０２会議室

(1)　委員長・副委員長の決定

【委 員 長】県立学校グループ参事　山田耕一郎

【副委員長】県立会津大学教授　　村川　久子

(2)　今後の予定について

(3)　今年度検討事項

○　中高一貫教育を踏まえた高等学校教育課程

①　語学教育、情報教育、多文化理解教育の実施内容（選択教科）

・　中学の学校設定教科の高校での展開科目

②　総合的な学習の時間の実施内容

・　再構成したステージとの対応、中学校からの継続性

○　中高の教育課程連携の具体的内容

①　中高の生活時間帯の調整（校時表）

②　中高教員によるＴＴ、習熟度別指導の具体的科目、内容

③　特別活動の連携の具体的内容

④　総合的な学習の時間の実施内容

・　再構成したステージとの対応、高校への継続性

○　会津大学との連携の具体的内容（独立法人化に向けた対応）

①　情報環境の連携の具体的内容

・　ネットワーク、ＯＳ等、中・高で必要となるスペックの確認

・　大学施設の活用の内容、頻度

②　人的連携の具体的な内容

・　特別講義の内容、頻度、指導形態（教員、学生、家族等）

(4)　協議

①　「併設型中高一貫教育校リーフレット」の原案提示

②　今年度検討課題の提示

③　ワーキンググループ業務分担案の提示

(5)　情報収集

北海道・東北地区中高一貫教育推進フォーラム（福島市）参加

(6)　その他

2　第２回会議　情報収集結果報告及び協議

１１／２４（水）１３：３０～１５：００　自治会館３０３会議室

(1)　北海道・東北地区中高一貫教育推進フォーラム参加報告について

平成１６年度北海道・東北地区中高一貫教育推進フォーラム実施概要

参加者：会津学鳳高校２名、（丹野、参事、主任、松田、諏佐）

1　開催期日　　平成１６年８月３日（火）～４日（水）

2　開催県・会場名　　福島県・ホテル福島グリーンパレス

3　参加人数　　１７１名

4　フォーラムの概要

（１）　基調講演　　「変化の時代の中高一貫教育の可能性
－確かな学力・豊かな教養、身につく社会力－」
跡見学園女子大学教授　　堀　内　一　男

（２）　事例発表

①　事例発表Ⅰ：群馬県立中央中等教育学校　　副校長　　堀澤　　勝
「６年たったら国際人」－群馬県立中央中等教育学校の取組み－

②　事例発表Ⅱ：岡山県立操山中学校　　副校長　　大塚　雅嗣
岡山県立岡山操山中学校・高等学校における併設型中高一貫教育の概要

③　事例発表Ⅲ：山形県立小国高等学校　　教　頭　　手塚　美雄
連携型一貫教育の取組みについての事例

（３）　パネルディスカッション

テーマ：「中高一貫教育の成果と課題、可能性」

パネリスト：堀　内　一　男（跡見学園女子大学教授）
堀　澤　　勝（群馬県立中央中等教育学校副校長）
大　塚　雅　嗣（岡山県立岡山操山中学校副校長）
手　塚　美　雄（山形県立小国高等学校教頭）

コーディネーター：山　田　耕一郎（福島県教育庁県立学校グループ参事）

（４）　分科会

①　第１分科会：中等教育学校・併設型
オピニオンリーダー　秋田県立横手清陵学院高等学校長　　荒　川　恭　嗣

②　第２分科会：連携型
オピニオンリーダー　宮城県志津川高等学校長　　佐々城　　洋

③　第３分科会：設置推進
オピニオンリーダー　北海道教育庁企画総務部参事主査　　宮　下　祐　司

(2)　協　議

①　各グループ案について

・　グランドデザインについて
・　中学校の教育課程について
・　高校の教育課程について
・　情報活用能力・英語が使える国際人の育成について
・　総合的な学習の時間について
・　特別活動について

・　日課表について
・　高等学校の教育課程について
・　会津若松市教委からの意見、要望について
・　施設整備の進捗状況について
・　その他

②　「第二次まとめ（案）」の構成について

３　第３回会議　協議　　１／１８（火）１３：３０～１５：００　自治会館３０１会議室

(1)　「第二次まとめ（案）」について

はじめに
１　設置年度等
(1)　設置年度
(2)　学校名
(3)　設置形態
(4)　学校規模
２　教育コンセプト
(1)　教育目標
(2)　育てる力
(3)　目指す生徒像
３　教育内容
(1)　教育課程編成の基本的な考え方
(2)　教育課程等
①　中高６年間の再構成
②　６年間一貫した教育課程等（別紙１）
ア　学力を高め、夢を実現する教育課程
(ｱ)　中学校の教育課程（別紙２）
(ｲ)　高等学校の教育課程（別紙３）
イ　情報活用能力の育成
ウ　英語が使える国際人の育成
エ　「学鳳レインボープロジェクト」（仮称）（別紙４）
オ　特別活動
③　指導方法、指導体制等
４　入学者選抜方法に関する考え方について
(1)　福島県立会津学鳳中学校（仮称）への入学
(2)　福島県立会津学鳳高等学校への入学
５　その他
（資料１）文部科学省告示（教育課程の基準の特例）
（資料２）検討経過
（資料３）委員名簿

(2)　次年度以降の進め方について

（資料３）

平成１６年度
会津学鳳中高一貫教育検討委員会委員名簿

	所　　属	職　　名	氏　　名
1	会津大学	教授	村　川　久　子
2		助教授	豊　泉　　洋
3	会津若松市教育委員会	総務主幹兼指導主事	齋　藤　幸　男
4		主幹兼指導主事	寺　木　誠　伸
5	会津学鳳高等学校	教頭	誉　田　秀　隆
6		教諭	遠　藤　修　司
7	教育センター	カリキュラム研究チーム主任指導主事	遠　藤　雄二郎
8	会津教育事務所	指導主事	渡　部　淳　一
9	福島県教育庁	総務企画グループ管理主事	大和田　　修
１０		同　　主査	吉　田　　登
１１		学習生活指導グループ指導主事	山野辺　藤　夫
１２		企画学力向上グループ指導主事	丹　野　純　一
１３		学校施設グループ主任主査	山　口　昌　隆
１４		県立学校グループ参事	山　田　耕一郎